

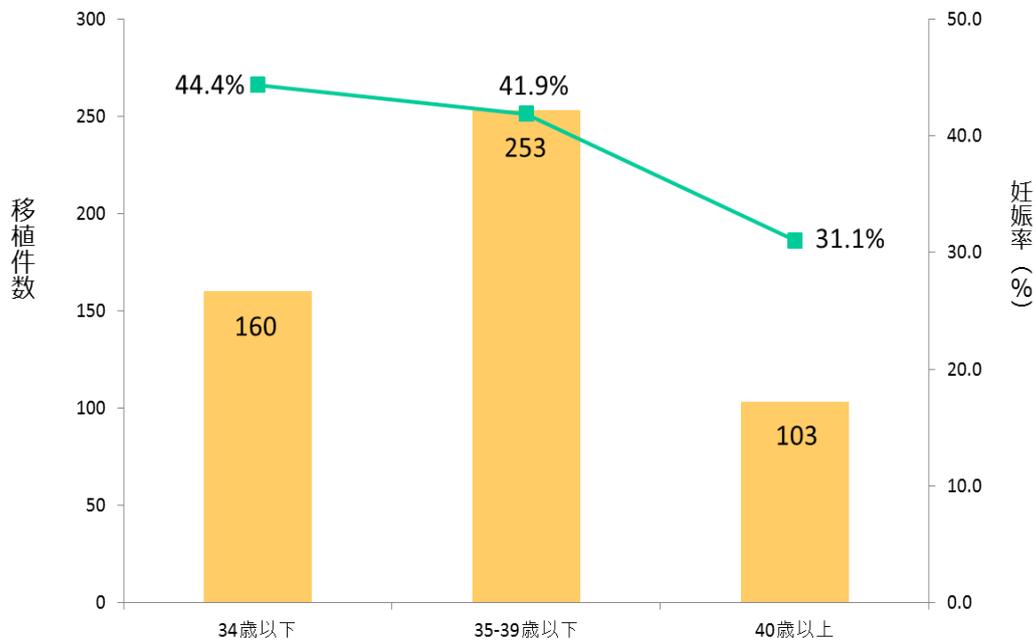
# ART による妊娠率

今回は、2016年の凍結融解胚移植 516 周期における年齢別妊娠率と、2012年から2016年末までの過去5年間に行われた胚移植 1949 周期(39歳以下の症例)の累積妊娠率をご報告させていただきます。

## 年齢別妊娠率(凍結融解胚移植)

これは、2016年に行った凍結融解胚移植の年齢別妊娠率を示したグラフです。棒グラフが左軸の移植件数、折れ線グラフが右軸の妊娠率を示しています。34歳以下と35-39歳以下は40%以上の妊娠率がありますが、40歳以上では31.1%と低下しています。また、培養後に移植可能な胚盤胞期胚が得られる可能性は39歳以下で約35%、40歳以上だと約24%となり、年齢を経るにつれて、移植できる胚を得られる可能性も下がります。

2016年 年齢別にみた凍結融解胚移植の妊娠率

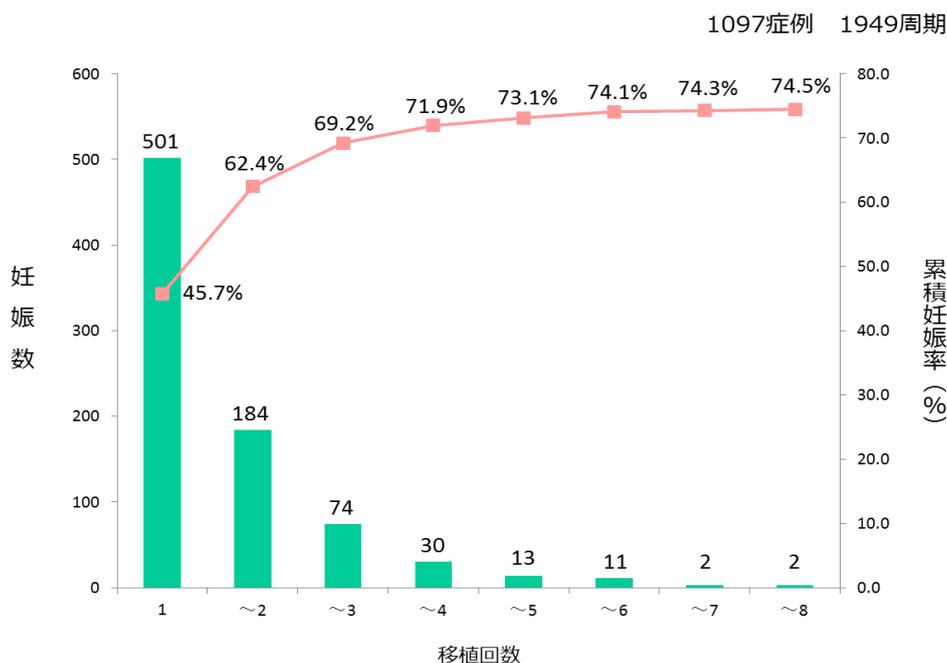


## 累積妊娠率と妊娠数

こちらは累積妊娠率と妊娠数を示したグラフです。累積妊娠率とは、胚移植をした全ての患者様のうち、何割の方が何回目で妊娠(胎嚢が確認できた)に至ったかを示したものです。折れ線グラフは右軸の累積妊娠率を示しており、棒グラフは左軸の妊娠数を示しています。移植回数 4 回目までの箇所を見てみると累積妊娠率が 71.9%となっていますが、これは胚移植を 1~4 回行った患者様のうち、71.9%が妊娠に至っているという見方です。1 回目で妊娠した方、2 回目で妊娠した方、3 回目、4 回目と、どんどん妊娠数を積み重ねていくので、回数を経るにつれて累積妊娠率は上昇していきます。

妊娠数は 1 回目の移植において最も多いですが、折れ線グラフを見ると累積妊娠率はだいたい 6 回目まで上昇しており、その後は横ばいとなっています。このグラフから、何回か移植をすることで妊娠率が上がる可能性があることと、およそ 6 回の胚移植ができた場合には約 74%の妊娠率が得られると考えることができます。

ARTによる累積妊娠率 (20012.1.1~2016.12.31)



累積妊娠率から、胚移植可能な胚が得られれば、移植 6 回目までは妊娠する可能性が見込める、ということになります。すなわち、胚移植の治療回数の目安は 6 回前後であると言えます。しかし、最初に示したように、移植可能な胚を得られる可能性や妊娠率は治療時の年齢にも左右されますし、患者様の背景によっても変わってきます。今回のデータは、今後、治療を行っていく上での資料として捉えていただければと思います。

担当：培養室 知念